

平成26年度
事業計画書

自 平成26年4月1日

至 平成27年3月31日

公益財団法人 ノーマライゼーション住宅財団

平成26年度 事業計画

〈基本方針〉

昨今の日本経済の基準判断報告書によると現状の景気は緩やかに回復してきており、物価は、底堅く推移しています。また、先行きについては、輸出が持ち直しに向かい、各種政策の効果が下支えするなかで、家計所得や投資が増加し、景気の回復基調が続くことが期待されています。ただし、海外景気の下振れが、引き続きわが国の景気を下押しするリスクとなっており、また、消費税率引上げに伴う駆け込み需要及びその反動が見込まれています。道内企業においても今後厳しい状況が続くと思われまます。当財団の基本財産運用収入も若干ですが減少を余儀無くされております。このような状況下ではありますが、当財団は平成24年度に公益財団法人へ移行してから3年目を迎えることとなりました。今年1月には初めての行政庁の立入り検査がありましたが、特に問題指摘事項等はありませんでした。当財団としましては、本年度も更なる管理面・制度面の充実を図るとともに、緊縮予算を念頭におきながら財団運営を行いたいと思ひます。

これらの現状を踏まえ平成26年度も公益に資する法人としてさらに気持を新たにし、当財団設立の原点に基づき、高齢者や障がい者が安全で安心して快適に暮らせる住生活の整備・向上の支援を通して、全ての人生きがいをもって生活できる社会づくりと社会福祉の増進に寄与する事業に取り組んで参ります。

〈事業計画〉

I. 福祉住宅の建築に関する助成及び情報提供事業

(1) 助成金による福祉住宅建築支援

当財団設立以来、第26回目を迎える建築助成事業として今年も多方面から募集し継続していきます。

高齢化社会が進んできている中、高齢者や障がい者がもっと安全・安心して快適に暮らせる住宅、また将来身体機能等が低下しても安心して生活できる住宅の普及を目指します。

福祉住宅として新築・リフォームされた建築主、およびグループホームや高齢者向けアパートなどの福祉小規模集合住宅の建築主から広く数多くの応募を受付、有識者による審査のうえ今後の参考に資する施工物件に対して助成金を給付します。

(2) 福祉住宅建築助成実例集「ふれあい」発行

助成建築主へ直接取材を行い、今後の福祉、介護面等の参考となる事例や建築に関するアイデアなどを、当財団情報誌により広く提供していきます。

また、専門家のアドバイスや、工夫した点、実際に暮らしてみても感想なども綴られております。

冊子「ふれあい」は、地方自治体および社会福祉協議会など関係諸機関及び福祉関係の講演資料として配布し、広く地域の皆様に役立てていただきます。

II. ノーマライゼーション理念の普及啓発事業

(1) 広報誌「^{ウィズ ライフ}WITH LIFE (共に生きる)」発行

福祉に関する情報を掲載し、ノーマライゼーションの理念と実践を紹介する当財団の広報誌です。

ノーマライゼーションを実践されている方々の対談やインタビューをはじめ、福祉事情の紹介や福祉住宅の設備、福祉機器、快適で便利なシステムなど、役立つ情報をわかりやすく紹介していきます。

「ふれあい」同様、地方自治体や介護支援の事業所及び社会福祉協議会など各関係諸機関に配布し、社会福祉の増進に役立てていただきます。

(2) 小・中学生によるアイデア・コンテスト

当財団は、「すべての人が共に暮らし共に生きることがノーマル（正常）である」というノーマライゼーション理念の普及・啓発を図るため、子どもたちにアイデアを考えていただき“広いこころ”を育てることで。

本年度で第19回目を迎える小・中学生によるアイデア・コンテストは、さらに多くの小中学生に参加して頂き、作品を募集し継続していきます。

おとしよりや障がいを持つ人たちが、明るく楽しく生活できるアイデアや、安全に外出を楽しめる環境づくり等についての多くの提案をしてもらいます。

(3) 福祉事情に関する情報収集及び提供

昨年同様、本年度は視察研修計画として九州方面を検討し、各エリア社会福祉協議会からの情報やアドバイスを参考に計画実行いたします。あらゆる福祉全般に関する情報収集を目的として、有識者や福祉関係者などに呼び掛け、福祉住宅状況や福祉事情など把握し研修視察をし、視察研修報告書及び「WITH^{ウイズ}LIFE」等でレポートにて発表していきます。

Ⅲ. その他事業

公益法人としての責務を自覚し、この法人の目的を達成するため積極的に事業に取り組んでいきます。